

## 取扱いの趣旨

A群β溶連菌迅速試験定性は、溶連菌感染症の診断を目的とする検査のため、治癒判定目的に対する算定は、原則として認められない。

## 支払基金が公表している取扱いの全文

【検査】

《令和6年9月30日》

288 A群β溶連菌迅速試験定性の算定について

### ○ 取扱い

溶連菌感染症に対するD012「19」A群β溶連菌迅速試験定性の算定は、原則として、1エピソード（1発症）につき1回まで認められる。

なお、溶連菌感染症の治癒判定目的での当該検査の算定は、原則として認められない。

### ○ 取扱いを作成した根拠等

A群β溶連菌迅速試験定性は、上気道炎（扁桃炎、咽頭炎）や皮膚疾患（伝染性膿痂疹、丹毒等）の原因菌となるA群連鎖球菌を迅速に診断するための検査である。

本傷病名における本検査の感度は高く、繰り返し実施する意義は低いと考えられる。また、本検査は、溶連菌感染症の診断を目的とする検査であり、保険診療上、治癒判定目的での算定は適切ではない。

以上のことから、溶連菌感染症に対するD012「19」A群β溶連菌迅速試験定性の算定は、原則として、1エピソード（1発症）につき1回まで認められると判断した。また、治癒判定目的での算定は、原則として認められないと判断した。

## グラフの見方

### 1 棒グラフ（該当レセプトの審査結果）

当該事例の取扱いの対象となる診療行為（医薬品、特定器材）を算定している目視対象レセプト  
1万件当たり、取扱いの趣旨に該当するレセプト件数

### 2 折れ線グラフ

取扱いの趣旨に該当するレセプトのうち、  
査定・返戻となった割合

#### 【棒グラフ凡例】 審査の結果

査定	返戻	: 取扱いどおり
請求どおり 職員	請求どおり 審査委員	: 検証が必要

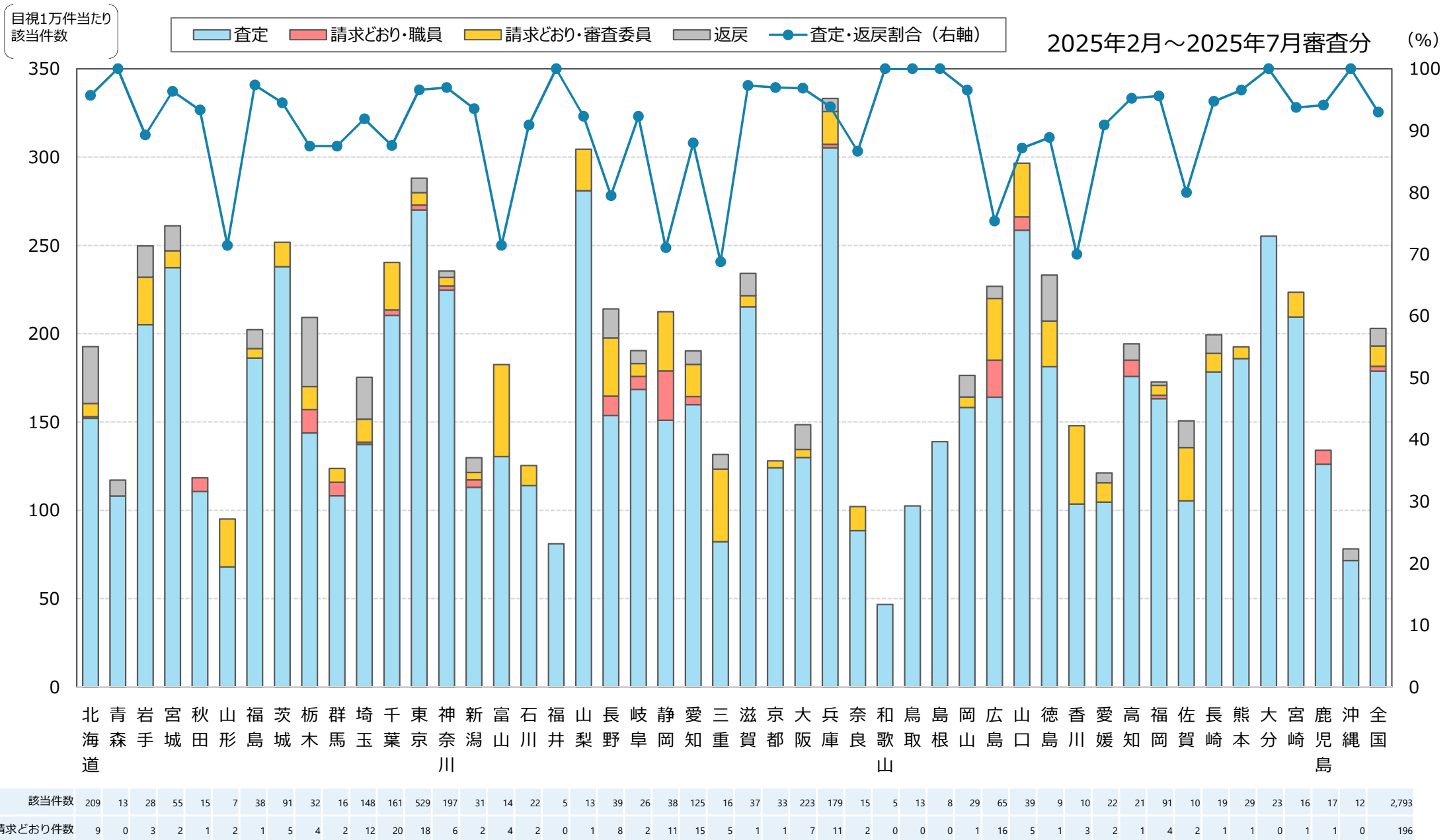
## 審査結果の概要

➤ 全国の査定・返戻割合 92.98%

➤ 検証対象都道府県 15

検証観点	都道府県	備考
査定・返戻割合が低い	三重、香川、静岡、山形、富山、広島、長野、佐賀、奈良、山口、栃木、千葉、愛知、徳島、岩手	査定・返戻割合の低い順
請求どおり・職員	静岡、広島、栃木、長野、山口、愛知、千葉	対象1万件当たり件数の多い順
請求どおり・審査委員	富山、香川、三重、広島、静岡、長野、山口、佐賀、山形、千葉、岩手、徳島、愛知、奈良、栃木	//

該当件数（全国）	【条件】	2,793件
取扱いに基づく審査	査定・返戻の計	2,597件
検証を必要とする審査	請求どおり	196件



【該当件数】 取扱いの趣旨に該当したレセプト件数